



京都改憲阻止運動の出発  
総合資料館の「河上肇文庫」  
会員短信（品角小文）  
「うたごえ」よ高らかに  
—京都の「うたごえ運動」の歩みから  
闘争前編（四）

田中 豊藏  
志摩 肇  
市木 修  
原田久美子



1995.7.23 中之島公会堂 奥田修三

## 京都改憲阻止運動の出発

市木 修

一九六五年一月のある日、京都大学構内にある楽友会館ロビーで、新聞各社の記者をまえに「京都憲法会議」結成のよびかけが発表された。

いまは故人となられた立命館大末川総長をはじめ、住谷同志社総長、恒藤大阪市大学長、田畠同志社元大学長、依田義賢シナリオライター（他に大西清水寺貴主は欠席）のよびかけ人と、事務局をあずかった宮内裕京大教授、神谷信之助（のち参議院議員）と筆者市木が同席した。

よびかけは「政党、政派、思想、

信条の違いをこえて、改憲阻止の

一点で、すべての団体と個人の団結」を訴え、改憲阻止の一点での一大国民運動の推進力としての憲法会議の結成をよびかけたものであつた。

これより先、同年の一月三〇日には「憲法じゅうりん反対、憲法の平和的・民主的条項の完全実施と改憲阻止」のよびかけが、羽仁

説子、広津和郎、杉村春子など学者、文化人、宗教家など三十三氏によってなされ、同様に「憲法會議」の結成を訴えていた。

また、憲法知事も年頭の記者会見で「行政としても積極的な憲法運動の必要性」を強調した。

このように六五年初頭は、従来の憲法運動にみられなかつた幅広い統一戦線的ともいえる憲法運動の幕開けとなつた。

このような画期的な憲法運動の提唱には、一定の政治的理由があつた。

戦後の憲法史のなかで、いくつかの憲法の危機的状況がつくり出される。そのひとつに、憲法会議結成の前年、一九六四年七月の内閣調査会の「最終報告書」がある。八年余にわたる歳月と二億円を

上まわる国費を費やした「最終報告書」は、改憲論と改憲反対論とともに記述されているという「客観的」な態度をよそおいつつも、そ

の委員の構成からみて改憲の意図は明白であった。

一九四八年から五三年にかけての改憲論は朝鮮戦争による極東軍事政策の必要から、とくに第九条改悪による再軍備を一方的に要求されたなかから生れた。

ところが六四年は、むしろ日本独占資本の軍国主義的復活に照応したもので従来の「なしくずし改憲」を合法化するものであつた。一方、護憲運動と言えば、五四年に「憲法擁護国民連合」が結成されるが、講和条約をめぐって社会党が左右に分裂すると、民社党が「新護憲」をつくり、護憲連合も分裂した。各政党の憲法論の違ひもあって、改憲を押しとどめる強力な統一戦線的な組織はなかつた。

このような中で、「よびかけ」が提出されるや、各界の反応、反響は大きく、時宜にかなつたよびかけに、蜷川知事が支持会員の第一号に登録されるなど、またたく間に、百余りの団体と五百余名の個人の支持会員（大半は学者、文化人、芸術家、宗教人）があつまり、三月二十四日、京都教育文化センターで京都憲法会議が結成された。それまで前記宮内、市木らが昼夜わかつず、個人の自宅を訪問、支持会員加入に奔走したことは云うまでもない。

とくに六〇年安保闘争当時活動された前記宮内裕ら大学の研究者を中心とした「憲法擁護教授懇談会」や「民科法律部会」「青年法律家協会」などが憲法会議結成の大いな原動力となつた。

結成間もない憲法会議は、新鮮化人も多く、民主的諸運動の経験も多い京都では、さまざまな創意性のある活動が展開され、全国の先駆的役割を果した。

①憲法典の普及活動、②憲法じゅうりん、空洞化を許さず、平和的、民主的条項の完全実施、③明文改憲の阻止、を大きな運動の柱とした。「ポケット憲法手帳」を手に憲法学習、憲法学校、シンポジウム、講演会を府下のすみずみまで展開した。これらの計画も蜷川市町村役場が会場設営や準備などに協力することで支えられた。

また小坂哲人氏など映画専門スタッフによる映画「日本の憲法」の製作、「改憲阻止の歌」の製作発表、憲法パンチの普及などがすすめられた。自治体自身も、五月三日の憲法記念日には憲法手帳の発行、横断幕、懸垂幕の掲示、憲法講演会などの実施、憲法擁護を訴える宣伝車が街頭にあふれ、府下一円

憲法一色に埋めつくされた。

また「空文化」した条項の見なしが始め、「憲法を暮らしに生かす運動」を提倡、公職選挙法、議員定数のは是正、十八才選挙権、在宅投票制度の復活、点字広報、テレビ字幕による候補者放送、最高裁判官の国民審査運動など国民主権にかかる運動をすすめ、改正などによって、今日定着している諸制度などもこの運動の成果である。

また本土復帰前への沖縄への調査団の派遣、自衛隊の高校生への入隊勧誘・自衛隊記念日の市中パレードの中止や、「自衛隊適格者名簿」の摘発など。また戦車の府道通行禁止、防衛博の中止や、映画館での自衛隊PR映画の中止など、どんな小さな「憲法違反」の事実を見逃すことなく憲法会議でとり上げ、成果をあげた。

そのほか、「建国記念日」「靖国神社国営化」「元号法制化」などの動きへの反対運動や、学力テスト、教科書改悪、教科書訴訟、公明党の言論・出版妨害問題など思想・信条の侵害にかかる問題も関係団体と協力しながらとりこんだ。



元憲法会議事務局員

憲法論の違いや、思想、信条の違いをこえた「改憲阻止の一点」での団結・協同は、今日こそ最も大切で課題ではなかろうか。

(いちき・おさむ)

早いもので、結成から三〇年余、憲法の危機的状況は少しも変わっていない。それどころか、新ガイドラインなどを始めとして、自民党憲法調査会の発足、読売新聞の改憲論の展開、そのうえ、政党的総自民党化とあいまって、最も危険な状態にある。

## 総合資料館の「河上肇文庫」

原田久美子

一九六三年、府立総合資料館が設立されてからこの秋で満三四年になる。その瀟洒な建物は洛北の景観の一部となり、日々多くの利用者に親しまれてきた。ところが昨九年二月、荒巻知事は岡崎にある府立図書館の改築計画を発表し、その中で総合資料館の図書部門を新府立図書館に統合する旨、明らかにした。九月に府教委が発表した基本計画では、資料館が所蔵する資料七九万余点のうち六〇万冊を新府立図書館に移し、同館の蔵書四〇万冊と一本化するという(『京都新聞』96・9・19夕刊)。総合資料館の設立時に府立図書館から貴重書をふくむ約一八万冊を移した経過があり、これが長く尾を引いている事情も背景にあるものの、今回の一方的な計画は文化施設の自治体リストラに他ならない、最終的に何十万冊ものが動くかどうかはさまざまなものである。

公然たる憲法典の改憲阻止には多くの力を注ぎ、改憲への過程である「小選挙区制」には学習パン

紙の発行、署名、十数項に及ぶ国會請願を展開、機先を制してその都度断念させてきた。また五月三日を中心として「全国関西学者文化人憲法問題懇談会」の行事も毎年続けられてきた。

ところで総合資料館は、設置目的として「京都にかんする歴史・文化・産業・生活等の諸資料を総合的に収集し、これを整理・保存して閲覧・展示等により府民の調査研究等の利用に供すること」を掲げている。私たちは、利用者・府民=納税者・研究者などの立場から、これまでの同館の運営を点検し、評価すべき点を明らかにするとともに、改善を要すると思われる点も指摘してゆくことが必要だろう。ここでは河上肇文庫を紹介し、感想めいた私の意見も述べておきたい。

総合資料館では、一九七二年六月初旬、河上肇記念会と共に催して、「河上肇遺品展」を開いた。四日間で一、四〇〇人の見学者が訪れたが、その後、六五点が寄託あるいは寄贈され、翌七三

年六月「河上肇文庫」が設立された。これは、「京都で独自の学問体系をうちたてた学者の人と思想」に関する資料収集の手はじめでもあったという。これより専従の職員をおき、資料の収集整理に努めた結果、七四年八月末までに一、三九七点となり、同年末には『河上肇文庫目録』(天野敬太郎監修)を刊行している。文庫は、河上肇の著作物と関連資料(河上肇研究資料および現物資料)より構成され、寄贈、寄託を受けられないものについては写真又はコピーによる複製で収集し購入もしててきた。

一般に特定人物の文庫ができる場合、多くはその本人が亡くなつてから旧蔵書を寄贈されるケースが多い。だが、河上肇文庫の場合には、末川博氏をはじめ交流のある人々による寄贈寄託と、館が積極的に収集をはかっていったことが特徴的である。そして、わずか一年三ヶ月ほどで、充実した文庫ができ上ったわけだが、河上会などの全面的な協力と、天野敬太郎氏による綿密な著作目録があつたことも大いに幸いした。そしてタイミングが実によかった。遺品展の開かれた年は河上肇の没後二五年の年にあたり、それ以後まだしばらくは河上と親しく交流のあつ

た人々も健在だった、当時は蜷川府政の時代であり、館の理事者も文庫の充実に積極的だったので、有能で熱心な職員が専任として業務に従事する体制もとられていたのである。

「河上文庫がつくられたころは資料館も脚光を浴びた時代だった」とある友人は語った。継続して関係資料の充実をはかっていく、とされていた同文庫は、意外にも現在一、三九六点で二三年前より一点へつてているという。多分、寄託品を返したためとみられている。それにしても、充実したこの種のコレクションがあれば、関連資料は寄贈などでぼつぼつと増えていくものである。関連資料(河上研究など)がこの中にいくらか入っていることを考え合わせると、寄託品の減り方が気にならざるを得ない。担当者はいても専任のいなくなつた同文庫は、お守りするだけのものになっているといふのである。

「河上文庫がつくられたころは資料館も脚光を浴びた時代だった」とある友人は語った。継続して関係資料の充実をはかっていく、とされていた同文庫は、意外にも現在一、三九六点で二三年前より一点へつていているという。多分、寄託品を返したためとみられている。それにしても、充実したこの種のコレクションがあれば、関連資料は寄贈などでぼつぼつと増えていくものである。関連資料(河上研究など)がこの中にいくらか入っていることを考え合わせると、寄託品の減り方が気にならざるを得ない。担当者はいても専任のいなくなつた同文庫は、お守りするだけのものになっているといふのである。

「河上文庫がつくられたころは資料館も脚光を浴びた時代だった」とある友人は語った。継続して関係資料の充実をはかっていく、とされていた同文庫は、意外にも現在一、三九六点で二三年前より一点へつていているという。多分、寄託品を返したためとみられている。それにしても、充実したこの種のコレクションがあれば、関連資料は寄贈などでぼつぼつと増えていくものである。関連資料(河上研究など)がこの中にいくらか入っていることを考え合わせると、寄託品の減り方が気にならざるを得ない。担当者はいても専任のいなくなつた同文庫は、お守りするだけのものになっているといふのである。

「河上文庫がつくられたころは資料館も脚光を浴びた時代だった」とある友人は語った。継続して関係資料の充実をはかっていく、とされていた同文庫は、意外にも現在一、三九六点で二三年前より一点へつていているという。多分、寄託品を返したためとみられている。それにしても、充実したこの種のコレクションがあれば、関連資料は寄贈などでぼつぼつと増えていくものである。関連資料(河上研究など)がこの中にいくらか入っていることを考え合わせると、寄託品の減り方が気にならざるを得ない。担当者はいても専任のいなくなつた同文庫は、お守りするだけのものになっているといふのである。

## ◆会員短信◆

「燎原」の編集大変御苦労様でございます。

一一〇号をこえた今、歴史的にも意義深いと思いうれしく存じます。

ぶりかえりますと、民主運動史を語る会の機関紙として発足する時、末川博先生が、底辺には自然があり頂点には人間がある。自由人として何ものにもとらわれず何にもおそれず自分の信する道を前へ前進と進んでもらいたいと言われたのを思い出しています。

私も後一年で九〇歳となる今、時間と運命に流されていますが、うれしいことには盛林診療所の情味深い内藤医師の御来診のおかげでやっと命をつなぎます。

私も後一年で九〇歳となる今、時間と運命に流されていますが、うれしいことには盛林診療所の情味深い内藤医師の御来診のおかげでやっと命をつなぎます。

人間である限り自分自身の良心にしたがいながら命を大切にしたいかと思います。

(上京区住 品角小文)

た人々も健在だった、当時は蜷川府政の時代であり、館の理事者も文庫の充実に積極的だったので、有能で熱心な職員が専任として業務に従事する体制もとられていたのである。

「河上文庫がつくられたころは資料館も脚光を浴びた時代だった」とある友人は語った。継続して関係資料の充実をはかっていく、とされていた同文庫は、意外にも現在一、三九六点で二三年前より一点へつていているという。多分、寄託品を返したためとみられている。それにしても、充実したこの種のコレクションがあれば、関連資料は寄贈などでぼつぼつと増えていくものである。関連資料(河上研究など)がこの中にい

くらか入っていることを考え合わせると、寄託品の減り方が気にならざるを得ない。担当者はいても専任のいなくなつた同文庫は、お守りするだけのものになっているといふのである。

「河上文庫がつくられたころは資料館も脚光を浴びた時代だった」とある友人は語った。継続して関係資料の充実をはかっていく、とされていた同文庫は、意外にも現在一、三九六点で二三年前より一点へつていているという。多分、寄託品を返したためとみられている。それにしても、充実したこの種のコレクションがあれば、関連資料は寄贈などでぼつぼつと増えていくものである。関連資料(河上研究など)がこの中にい

くらか入っていることを考え合わせると、寄託品の減り方が気にならざるを得ない。担当者はいても専任のいなくなつた同文庫は、お守りするだけのものになっているといふのである。

「河上文庫がつくられたころは資料館も脚光を浴びた時代だった」とある友人は語った。継続して関係資料の充実をはかっていく、とされていた同文庫は、意外にも現在一、三九六点で二三年前より一点へつていているという。多分、寄託品を返したためとみられている。それにしても、充実したこの種のコレクションがあれば、関連資料は寄贈などでぼつぼつと増えていくものである。関連資料(河上研究など)がこの中にい

くらか入っていることを考え合わせると、寄託品の減り方が気にならざるを得ない。担当者はいても専任のいなくなつた同文庫は、お守りするだけのものになっているといふのである。

「河上文庫がつくられたころは資料館も脚光を浴びた時代だった」とある友人は語った。継続して関係資料の充実をはかっていく、とされていた同文庫は、意外にも現在一、三九六点で二三年前より一点へつていているという。多分、寄託品を返したためとみられている。それにしても、充実したこの種のコレクションがあれば、関連資料は寄贈などでぼつぼつと増えていくものである。関連資料(河上研究など)がこの中にい

## 「うたごえ」よ高らかに

—京都の「うたごえ運動」の歩みから

志摩 肇

♪「起て飢えたる者よ

今ぞ日は近し

覚めよ

わがはらから暁は来ぬ

舞台から流れくる、力強い混声  
四部合唱に私は体が打ち震えていた。

隣の清水良一（現下京民主商工  
会長）君も、ほほを染め目を輝か  
せている。

ときは一九四八年八月の或日、  
場所は東山知恩院前の華頂会館。

唄うは関鑑子先生率いる日本青年  
共産同盟（略称青共）中央合唱団  
二五名の仲間達。

この年二月に創立された青共中  
央合唱団の、「うたごえ」を全国  
に拡げようとの関西公演の一環の  
京都演奏会だった。

この時代、終戦から三年を経て  
もなお混乱期、治安維持法廃止・  
共産党や労働組合も陽の目を見、

新憲法施行で平和と民主主義の運動  
は火のように全国を渦まいていた。

当時私は青同盟員、この活動  
の中で闘争歌・労働歌を知り、集  
まりの中でもみんなで唄ってはいた  
が、以前地域の合唱団に入っていた  
関係でオタマジャクシは読める  
し、それだけに民主陣営の人々の  
唄うのを聞くと、音符の高さや長  
さの不正確さは耳につき、そんな  
ことで、かねてより闘争歌・労働  
歌をキチンとした合唱で聞き又唄  
いたいと思っていた。

清水良一君は、私と同じ日国上  
京工場の労働者、共に青同盟員  
として職場で活動する仲間だが、  
実は奇遇にも出身が同じ京都市立  
第二工業学校（二工）で、しかも  
科も同じ木材工芸科。もっとも彼  
の方が一年先輩で、戦争中なら鉄  
拳制裁を喰わされる関係だが、青  
共では私が先輩「これで先輩・後  
輩差引零」ということになった。

當時私は青同盟員、この活動  
の中で闘争歌・労働歌を知り、集  
まりの中でもみんなで唄ってはいた  
が、以前地域の合唱団に入っていた  
関係でオタマジャクシは読める  
し、それだけに民主陣営の人々の  
唄うのを聞くと、音符の高さや長  
さの不正確さは耳につき、そんな  
ことで、かねてより闘争歌・労働  
歌をキチンとした合唱で聞き又唄  
いたいと思っていた。

から、嵐のように進む毎日の闘い  
とその目指す方向の中で、本来自  
分が求めているものと「何かが違  
う」との感を禁じえなかつた。  
一方ラジオやレコードからは、  
戦時中の軍歌に代わって甘い歌謡  
曲の洪水であり、これとも別の意  
味で当然違和感があった。  
そういうなかで聞く「インターナ  
ショナル」であり「同志よ固く  
結べ」であった。  
合唱に詳しくない方には判から  
ぬかも知れないが、メロディだけ  
をみんなが一緒に唄う——これを齊  
唱というのと、男女がそれぞれ  
高低に分かれ、四つの声でハーモ  
ニーをつけ唄うのは全く違つて  
聞こえるものである。

特に「インターナショナル」は  
パリコンミューーンの中で唄つた戦  
士を贊え作られた名曲で、又この  
混声四部編曲は傑作と言えるもの  
で、一度これで唄うとヤミつきに  
なる仲間もその後数々有つた。  
もともと闘争歌・労働歌も、戰  
習つただけだが、私が戦後地域青  
年団活動で知りあつた高校の音楽  
の先生の合唱教室に参加し、彼も  
あとからそこに参加した。  
ただ合唱の基礎を習い、世界の  
名曲を唄うのは良いが、當時すで  
に青共員として又労働組合の一員  
としての活動に参加していた関係  
から、この日の青共中央合唱団のレ  
パートリーは、闘争歌・労働歌の  
他世界の民謡、日本民謡・それに  
オペレッタ「パンは誰のもの」で  
構成されており、この他参加者へ  
の歌唱指導も有つた（残念ながら  
その曲目は忘れた）。

中央合唱団公演の翌日、地元青  
共員との交流会が呼びかけられ、  
興奮覚めやらぬ私は職場に休暇を  
とって参加、東山豊國廟で中央の  
仲間と思う存分話し合い唄い合つ  
た。

このあと「京都にも中央合唱団  
のような合唱団を是非作りたい」  
と、私も清水良一君もその実現を  
青共府委員会に強く求めたが、一  
向に具体化せず日が過ぎゆくばかり  
りだった。

しかし、この間にも労働組合の  
ストや各種の集会では必ず歌が有  
り、歌が人々の心を一つにまと

め、行動の統一を前進させることが明らかになるにつけ、青共府委員会が「合唱団づくり」を京都市内の職場・地域・学園班に呼び掛けるのである。

一九四九年八月三日夕方、河原町五条下る西側延寿寺二階に有つた青共府委員会事務所に集まつたのは、私と清水良一君・簡易保険局から来た鈴木千鶴さん—この人は後日清水良一夫人となる—。それに府立病院の事務所にいた中島敏子さん—この人はその後結婚し関東に行き現在連絡不能—の僅か四名。

私は正直ガッカリした。いやしくも青共府委員会が呼びかけるのだからもう少し集まると思っていたが、グチをこぼしても仕方が無い。とにかく先ずこれでスタートー」とすることが大切と四人で「青共京都合唱団」結成を相談。「今後更に青共の各職場・地域・学園班に参加を呼びかける」とこととし、私を責任者とし毎週火・金曜日の夕方レッスンを開始することとした。

この呼びかけが効を奏し、私も清水良一君出身職場の日国・日本レスや鐘紡などの織維・国鉄等々仲間がその後僅かずつでも次々増えていったのである。

しかし自由に歌を唄える練習場

所が有る訳では無い。延寿寺二階の府委員会事務所は、毎日会議が行われており歌はその邪魔。仕方無く延寿寺本堂前階段を占領した。

夏は蚊に悩まされて線香を焚き、冬は降りしきる雪の冷たさをたつた一つ七輪を開みながらだつたが、誰も文句を言うものも無く青春のエネルギーを発散させていた。

又適当な指導者がいた訳でも無い。たまたま私が僅かばかり楽器が弾けたので「お前がやれ」ということになり、誰かが貸してくれた小さなオルガンを開んで始めたことが役立った。

レッスンはそれでも、发声練習・楽譜を読みこなすための教則(コーラルユーブンゲン)、そして歌は闘争歌・労働歌と併せ世界の民謡を練習した—とりわけロシヤ民謡・ソ連歌曲が多かった—

## 闘

### 争 前編(四)

奏だが、先進的労働者の熱い連帯の拍手は私たちが「誰のために、何を、どう」唄うかの方向を示したものだった。

一九五〇年二月の京都市長選挙は、社会・共産・労農三政党と労働組合・民主団体が民主戦線統一會議を結成、統一候補として高山義三弁護士を押し勝利した。又この余力をそのまま府知事選にも巻川虎三前中小企業庁長官の当選を獲ちとり「日本の灯台」と言われた民主府政のスタートを切った。

私たちはこの選挙にも「うたごえ」で参加した。そしてこの勝利は、この年のメーデーに反映、青共京都合唱団は「和平を守れ」の名で「世界をつなげ花の輪に」というたごえを響かせるのである。

—以下続く—

(しま・はじめ

京都ひまわり合唱団

創立参加者

田 中 豊 藏

### 八、峻烈な拷問

三・一五事件から半月程たつたある日の事です。朝十時半頃、七条署の特高課の山本が

「田中出てこい」

といい鍵を開けてきました。私は胸がときどきしましたが、ついて

「田中、下におりろ」

といいます。

私服の署員が四、五人おりました。署員や民間人が稽古する道場

と挨拶しましたが、私は仲間に出て心強い感じがしました。七条署員は、京都府本部の上さんがおいでだ、といつて

「田中、下におりろ」

その走りは一九四九年秋の国際青年デー・日本共産党徳田球一書記長を迎えた一〇月革命前夜祭で、今から思うと下手の極みの演

です。八帖の間程あり柔道四段、五段の署員が私の前後にたって

「エイ」

といつて氣合いもおろともなげ飛ばします。すると後ろにいたのが

待っていたとばかりに「エイ」と

いつて投げ返すのです。「回程や

つて、上警部、松本警部補が、大

声で

「コラ、田中、染勞の池上<sup>ばん</sup>」

が共産党に入党したと言うと

る。間違いなかろう、そうだろ

う。」

「斎藤英三も言うておるぞ、白

状しろ、白状しないと、あとの

ためにならんぞ!!」

とわめきます。

「何もかも解っているのだ。正

直に言うたらお前の得だ」

と繰り返し繰り返し申します。

私は、

「述べない」

といいますと

「頑固なやつだなあ」

といって、

「今日はこの位で勘弁してやる

明日までよー考えておけ、帰

れ!!」

といつて留置場に帰しました。

私がかかると池岡君がまもなく

やられたそうです。

あくる朝、午前一時頃、本部員

と七条署員が入口で

「田中、出てこい」

といつて鍵をあけました。そし

て下につれて行つたのですが、

「しばらく考えておけ」

「コラ、田中、よー考えたか、

言つことは皆んな正直に言うの

だぞ」

とおどしました。私は

「入党していない。正直に言う

ていいのだ」

「貴様はなまいきなやつだ。こ

こへ座れ! うどん屋だ!!」

と命令しました。二、三人が私

の座っている手をうしろにまわ

し、ロープで両手と身体を二重三

重にしばり上げました。そして縦

て細身の丸木を入れて、丁度う

どんやさんが自転車にセイロを高

くつんで運ぶときセイロの上から

細い綱でしばり万力をかける時

様に、人間をしめつけるのです。

これを「うどん屋」というのだそ

うです。

「どうだ、どうだ!!」

と言います。普通の人なら辛抱で

きず参ってしまいます。私は前に

もビラまでやられておりますか

ら。それをやられる時は身体に力

を一杯入れてしめつけますので

す。そして「いたい、いたい」と

申します。大抵の人は我慢が出来

「どうだ!! 白状せよ」

といいます。だまっていますと

「しばらく考えておけ」

拷問の署員は一寸一歩くにいきま

す。その時に私は身体の力を抜き

ます。するとしめつけられた綱の

いたみが弱まります。

「この野郎、気絶もせずに頑張

ついていやがる……京都府特高課

の新撰組をなめているのか?」

というなり七条署員のドロ警(ド

ロ棒担当)が竹刀で思いきり私を

なぐるのです。私は、いたさをこ

らえました。

すると今度は、ソロバン二丁を

並べてその上にすわるのです。そ

して足の間に竹刀を差し入れて

「ザラザラ」前後にゆさぶるので

これは痛い、辛抱できません。

私は刃を食いしばっていたみをこ

らえましたが、足が無感覚になる

のと同時に横にたおれてしまいま

した。

私の父の親元は滋賀県栗田郡笠

縫村で長い間村長をやり栗田銀行

の頭取をしております。いわば地方

です。近所にも一遍に知れわたり

ました。

私の父の親元は滋賀県栗田郡笠

縫村で長い間村長をやり栗田銀行

の頭取をしております。いわば地方

身です。七条署特高課長は京都市

の今北区貯金局の近くの前の小

寺卯一です。あとで伏見署と七条

署の署長なりました。七条署の特

高課の飯田・山本・福原は今も健

在、坂根甚左エ門も東山区で健在

と思います。

私が三・一五事件で逮捕される

と、京都の新聞に名前が出まし

た。私の親元の滋賀県の方からも

京都につとめているものが多いの

です。近所にも一遍に知れわたり

ました。

私の父の親元は滋賀県栗田郡笠

縫村で長い間村長をやり栗田銀行

の頭取をしております。いわば地方

です。近所にも一遍に知れわたり

ました。

私の父の親元は滋賀県栗田郡笠

縫村で長い間村長をやり栗田銀行

の頭取をしております。いわば地方

です。近所にも一遍に知れわたり

ました。

私は二ヶ月余り各署をたらい廻

しにされましたが無事釈放された

のです。そして七条署では『今

後、共産党にはいかない』と書か

されました。私は労働者であったの

が幸いでした。身体を鍛えておか

いました。私は労働者であったの

が幸いでした。身体を鍛えておか

なくなり家の生活が成り立たなく

なると思っていたからこんなこと

京都府特高課の上警部は熊本出

を書いてしまったのです。

梅小路の駅では、日本通運KKをはじめ、大小運輸会社の仲間も私が共産党事件でつかまつたのに

ビックリした様です。

日通篠原自動車部の仲間は「頑張れ」と言ってくれ、貨物の上げ

おろしには高沢仁三吉君も励ました。私が又仕事が出来るようになつたことを喜んでくれました。

(たなか・とよぞう)

中京区在住)

# 燎原文芸

(奮って御投稿下さい)

旧作より 里井 のぶ

子と共に戦後の教科書学びるし  
かのときめきは今も忘れず

なつかしき唱歌いくつか葬り去り  
君が代の歌ござり歌へやと

反核のビラまくわれに近づきて  
ねぎらひくれし一人の姫

団交の席に氣負ひてもの言ひし  
若かりし日の一途さ恋し

彼の頃の幾人すでになし  
勤評闘争にあけくれし日々

短歌 三題 西村 苔桃

秋桜の揺れにうもれて  
淋しいなあと 看守は若し

われは黙して  
猪を追うとは知らず  
竹筒の彈ぜる音きく

独房の夜半  
独房にコスモスかけろい  
にぎやかな 静かな午後に

アベツエデ工自習す

一〇月一四日秋の例会はハート  
ピアを会場としておこなわれ、一  
〇数人の参加者がありました。「民  
主府政の会」代表幹事 森川明さ  
んのメッセージにつづき元京都府  
出納長の稻田達夫さんが「蟻川民  
主府政二十八年を語る」と題して

講演し、活発な質疑が交わされま  
した。写真は当日の模様です。

なお例会後に世話人会を開き、  
天野世話人代表の病気による辞任  
の申出を受けて、当分の間、岩井

忠熊が代表代行をつとめることを  
決定しました。以後の会の運営・編  
集については岩井代表代行へ、発  
送・事務連絡は奥村和郎にお願いし  
ます。

## ◆報告◆

## ◆訂正◆

一一二号 燎原文芸 西村コケ  
モモ氏の短歌「屋根の雀羅多忙」  
は「屋根の雀ら多忙」の誤りでし  
た。作者・読者におわびします



会および会報については、左  
記へご連絡ください。

〔事務局〕

〒六〇五 京都市東山区今熊野  
南日吉町三九 奥村和郎  
TEL FAX ○七五五五六一七四八五